

次の各主張について、それぞれの下に記す論者の主張と一致していれば(1)を、一致していなければ(0)をマークして下さい。各2点×50。

◆ 自由貿易にしたら最先進国イギリスにとっては貿易黒字が増えるメリットがある。

1. スミス(0)    2. リカード(0)    3. シュモラー(1)

1. スミスがイギリスで自由貿易を唱えたのは、貿易黒字が目的ではない。貿易黒字拡大を目指したのは、スミスが批判した重商主義の主張。正答率 78.3%。
2. リカードがイギリスで自由貿易を唱えたのは、貿易黒字が目的ではない。正答率 69%。
3. シュモラーはドイツで自由貿易を批判したのは、先進国イギリスが貿易黒字をもうけて、ドイツはその犠牲になると考えたから。正答率 48.9%。

◆ 19世紀はじめのイギリスが穀物輸入を自由化したら、イギリス経済は総需要が増えて成長する。

4. リカード(0)    5. マルサス(0)

4. リカードはイギリスで穀物輸入の自由化を主張したが、それは総需要が増えるからではない。リカードは総供給が総需要を生み出すという「セイ法則」を信じていた。正答率 54.3%
5. マルサスはセイ法則を否定して、総需要が生産を制約するとみなしたが、穀物輸入を自由化したら地主の地代からの支出が減って総需要が減退するとみなした。正答率 86.1%。

◆ 貿易黒字の拡大を目指すべきである。

6. 重商主義者(1)    7. スミス(0)    8. リカード(0)    9. フリードマン(0)

6. 重商主義の基本的主張。正答率 90%。

7. スミスの基本的問題意識は、重商主義のこの主張を批判することだった。  
正答率 89.7%。
8. リカードの貿易自由化論の根拠は、輸入によって少ない労働でより多くの財を入手できることにある。正答率 76.5%。
9. フリードマンは輸入制限に反対した。正答率 56.2%。

◆ 自国にマネーが流入することは自国経済にとって有益である。

10. 重商主義者(1)    11. スミス(0)    12. リカード(0)

10. 重商主義の基本的主張。正答率 92.9%。
11. スミスの基本的問題意識は、重商主義のこの主張を批判することだった。  
正答率 92.7%。
12. スミス、リカードらにとっては、貨幣は流通の媒介物にすぎない。リカードは、外国から貨幣が流入したら物価が上がるだけとみなした。正答率 82.6%

◆ 資本家の利潤の本質は不等価交換にある。

13. リカード(0)    14. マルクス(0)    15. プルードン(1)    16. デューリング(1)    17. ワルラス(0)

13. 利潤は資本提供の見返りとして市場で決まるものとみなされた。正答率 83.8%。
14. 労働力の等価交換から労働の搾取が発生すると考えた。正答率 88.4%。
15. 大資本の利潤は不等価交換から発生するとみなし、等価交換を組織することをめざした。正答率 89.9%。
16. 都市を包囲して物価をつり上げるモデルで利潤を説明した。正答率 58.9%。
17. 利潤も本質的には一般均衡で決まるとみなした。正答率 86.5%。

◆ 諸財の超過需要の総和は必ずゼロになる。

18. リカード(1)    19. マルサス(0)    20. ケインズ(0)

18. 「諸財の超過需要の総和は必ずゼロになる」というのはセイ法則のこと。リカードはこれが成立するとみなした。正答率 79%。

19. マルサスはリカードのセイ法則の主張を批判した。正答率 76.2%。  
20. ケインズの基本的な問題意識はセイ法則を否定して、有効需要原理を提唱することにあつた。正答率 70.8%。

◆ 労働組合が賃金引き下げに抵抗するのはよくない。

21. スミス(0)    22. マルクス(0)    23. ケインズ(0)

21. 重商主義の賃金引き下げ論を批判して、賃上げで国が豊かになると言った。正答率 68.5%。  
22. 労働者の階級闘争の一環である。賃上げ闘争は無益とする議論を批判した。正答率 61.9%。  
23. 労働組合が賃下げに抵抗するのが失業の原因とする、それまでの新古典派の議論を批判して有効需要不足が失業の原因だと主張した。正答率 52.3%。

◆ 価格が単位生産費に比例するとみなす古典派の価格論は誤りである。

24. マルクス(0)    25. ジェボンズ(1)    26. マーシャル(0)

24. 資本主義経済の長期均衡価格「生産価格」は、均等利潤率分の利潤を含めた単位生産費で決まる。正答率 77.9%。  
25. 価格は消費者側の要因で決まるとみなして、古典派の価格論を否定した。正答率 73.5%。  
26. 長期的には古典派の価格論があてはまるとみなした。正答率 65.1%。

◆ 価格は最大限度の効用に比例する。

27. スミス(0)    28. リカード(0)    29. マルクス(0)    30. ジェボンズ(0)  
31. メンガー(0)    32. ワルラス(0)    33. マーシャル(0)

「限界効用」のことを「最大限度の効用」と誤解している人を想定したひっかけ。もともと 27、28、29 は限界効用理論ではないし、その後も価格が限界効用に比例するとみなすが、それは「最大限度の効用」のことではない。正答率は、順に、87.7%、87.5%、87.4%、27.6%、21.5%、16.2%、45.9%。見事にひっかかっている。

◆ 私は社会主義を支持する。

34. マルクス(1)    35. ワルラス(1)    36. ウィクセル(1)    37. ランゲ(1)  
38. フリードマン(0)

34. もちろん社会主義者。正答率 60.7%。

35. 新古典派一般均衡論の創始者だが、自分では社会主義をめざした。正答率 95.9%

36. 新古典派体系を確立させたが、社会主義者として労働運動を支援した。正答率 62.1%。

37. マルクス主義を自認する社会主義者。講義で説明した。正答率 30.2%。

38. 当然社会主義嫌い。正答率 77.9%。

◆ 私は一般均衡論の手法を支持する。

39. ワルラス(1)    40. ウィクセル(1)    41. ランゲ(1)

全員一般均衡論モデルを使った。講義で説明した。正答率は順に、81.6%、63.7%、35.4%

◆ 資本主義の企業制度は永遠の経済システムではない。

42. マルクス(1)    43. ワルラス(1)    44. マーシャル(1)    45. フリードマン(0)

42. 資本主義体制の崩壊を展望した。正答率 50.7%。

43. 将来の社会主義社会をめざした。正答率 55.5%。

44. 企業は、労資共同経営企業を経て、将来的には労働者の協同組合企業に進化していくのだとみなした。正答率 75.3%。

45. 資本主義の企業制度を合理的なものとして擁護した。正答率 71%。

◆ 人々が貨幣を保有しようとする性向が不況をもたらす動因になる。

46. リカード(0)    47. マルクス(1)    48. マーシャル(0)    49. ケインズ(1)

46. 貨幣は流通の媒介にすぎないとみて、セイ法則が成り立つとみなした。正答

率 72.8%。

47. 貨幣蓄蔵欲求が恐慌の基本原因とみなした。正答率 33.1%。

48. 基本的にセイ法則を前提していた。正答率 75.3%。

49. 貨幣を保有しようとする性向を「流動性選好」と呼び、それが不況をもたらす原因であるとみなした。正答率 75.4%。

◆ 資本主義経済が発展すればするほど社会主義への移行の条件が失われる。

50. マルクス(0)

50. 資本主義システムの発展が社会主義への移行の条件を作り出すのだとみなした。56.8%。

おおむね、教科書の最初の方ほど正答率が高い傾向にある。

一つ2点で採点し、60点未満の者には、出席回数を15で割ったものを10倍して足した。ただし遅刻は0.5回分としている。

成績分布は、A+1.89%、A12.4%、B35.1%、C35.2%、F15.5%。100点が1名いた。